

核戦争防止 兵庫医師の声

第 82 号 2011 年 4 月号

発行 核戦争を防止する

兵庫県医師の会

〒 650 - 0024

神戸市中央区海岸通 1-2-31

神戸フコク生命海岸通ビル 5 F

兵庫県保険医協会内

電 話 078 (393) 1807

振 替 01130-6-57830

非核「神戸方式」36 周年記念のつどい & 昼休みパレード 非核「神戸方式」を国の制度に

口分田 勝

神戸市議会で「核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否に関する決議」の全会一致採択から 36 周年をむかえた 3 月 18 日、昼休みパレードと記念のつどいが神戸市内でおこなわれた。反核医師の会からは「つどい」に 5 人の医師らが参加した。記念のつどいは約 200 人が参加しました。集会には、海外 14 の国・団体から連帯メッセージと、15 の震災見舞いメッセージが寄せられた。梶本修史県原水協事務局長が基調報告をおこない、全国の民間港への米軍艦艇寄港が激増している事実と、神戸港入港を求めて執拗に非核「神戸方式」攻撃をつづけるアメリカの姿勢を、資料も示し説明した。記念講演では、緒方靖夫日本共産党副委員長が「核兵器のない世界をめざし」と題して講演。非核「神戸方式」の国際的意義として 00 年国連ミレニアムサミットで紹介推奨され、ニュージーランドの非核法につながったと述べ「自信をもち機会あるごとに海外へ広げよう」と強調した。また、当日、昼には神戸市役所花時計前からセンター街を抜けて三宮神社までパレードも行われた。パレードには、反核医師の会事務局らも参加し、「核兵器の持ち込みを許すな!」「兵庫県は非核宣言をおこなえ!」の唱和を響かせながら、行進した。以下に非核「神戸方式」36 周年に寄せた口分田勝代表のメッセージと 2011 年非核神戸港アピール。



核兵器搭載艦艇の 神戸港入港拒否に関する 決議

決 議

神戸港は、その入港船舶数及び取扱貨物量からみても、世界の代表的な国際商業貿易港である。利用するものにとっては使いやすい港、働く人にとっては働きやすい港として発展しつつある神戸港は、同時に市民に親しまれる平和な港でなければならぬ。

この港に核兵器が持ち込まれることがあるとすれば、港湾機能の阻害はもとより、市民の不安と混乱は想像に難くないものがある。

よって神戸市会は核兵器を搭載した艦艇の神戸港入港を一切拒否するものである。

以上決議する。

一九七五年三月十八日

神戸市会

満員の会場で公演する緒方靖夫氏（上）と決議全文（下）

がら、行進した。以下に非核「神戸方式」36 周年に寄せた口分田勝代表のメッセージと 2011 年非核神戸港アピール。



三宮センター街を行進する昼休みパレード

非核「神戸方式」が36周年を迎えた。核兵器を積んだ軍艦の入港を拒否するという非核「神戸方式」が、3月18日に36周年を迎えた。非核三原則を国是とするわが国では当然の行政手続きだが、わざわざ「神戸方式」と呼ばれるように、日本では神戸港だけで実施されている。なぜ、国の責任で実行しないのだろうか。

日米安全保障条約に基づいて、狭い日本国内に130以上もの米軍基地が存在している。日本政府は被爆国として「非核三原則」を掲げ、米軍の核兵器持ち込みの危険を防ぐため米政府との「事前協議制」まで編み出した。

しかし、米国の軍艦が日本の港湾・領海に立ち入る際には事前協議は適用しないとの秘密の合意、核密約を交わしていたことが発覚した。日本の安全を米国の核兵器・米軍に頼る政策、いわゆる「核の傘」政策をとっていたためだ。民主党政権は「核密約」の調査を行い存在は認めたが、米国が自由に核兵器を持ち込む仕組みは生き残ったままだ。

「神戸方式」は、非核証明書（核兵器不積載証明書）の提出を義務づけ、提出がなければ港湾管理者の神戸市が入港を拒否するという、極めて簡明なシステムだ。「神戸方式」誕生から36年間、神戸港に入港した艦艇はすべて非核証明書を提出している。

「神戸方式」実施以来、なぜか米国の軍艦が入港しなくなった。核兵器の存在を明らかにしない政策をとる米国は、非核証明書を出せないからだ。

今、神戸港を除く日本中の商業港への米軍艦の寄港が激増している。1996年からの15年間で317回にもなる。横須賀など日米安保条約に基づく地位協定で提供されている米軍基地だけでなく、日本中の港を米軍の戦争政策に取り込もうという暴挙を許せるだろうか。

非核「神戸方式」を国の制度として実施させ、非核三

原則を厳格に実行する非核の日本をめざし、憲法9条を守り、非核・平和の日本と世界を。

原発政策の見直しも

東日本大震災被災者のお見舞いのご冥福を祈る。復興願う。

東日本大震災により、福島原子力発電所の炉心溶融が大きな問題となり、放射能の大量放出が危惧されている。

核の脅威は武器だけにとどまらない。日本の原発政策も根本的な見直しと国民的議論が急務だ。

2011年「非核神戸港アピール」

すみやかに核兵器禁止条約の交渉を開始させる署名を広げ、憲法9条と非核「神戸方式」が輝く兵庫県、日本をつくりましょう

核兵器の持ち込みを拒否する非核「神戸方式」は、今日、36周年を迎えました。非核「神戸方式」は、国是とされる非核三原則を厳格に実行しているに過ぎません。「核兵器持ち込み禁止」は、本来、国が責任を持って実行すべきものです。しかし、国は、日米安保体制のもとで、米軍艦の日本の港湾・領海への立入りに「事前協議制」を適用しない「密約」をかわし、事実上、アメリカの核兵器持ち込みを野放しにしていることは許せません。民主党政権になって、核密約などの調査が行われました。しかし、公表された調査報告書は、「核密約」文書の内容を認めながら、それが密約であることを否定しました。国民が知らない間に米軍の核兵器が日本の港湾、領海に持ち込まれる仕組みが維持されるということになったのです。日本政府に対して、核兵器持ち込みの密約の存在を認め、きっぱりと廃棄を表明することを要求します。

核兵器を積んだ軍艦の入港を厳格に拒否し続け、アメリカの軍艦も寄港しない港をつくってきた非核「神戸方式」をしっかり守り、全国の港に広げ、非核三原則の厳格な実施のための措置とすることを日本政府に要求します。

核兵器廃絶が、国際政治の重要な焦点になっているいま、核兵器禁止条約の交渉開始を要求する国際署名運動がスタートしました。パン・ギムン国連事務総長はじめ国内外の広範な賛同を受けて広がる署名運動は、「核兵器のない世界」への道を切り拓きます。日本政府は、この世界の流れに背き、アメリカの「核の傘」に依拠し、

3面からつづく

軍事的にも経済的にも日米同盟にしがみつく政策が続いています。そして、国際情勢の動きを口実に、米軍基地強化、米軍と一体となった自衛隊の海外派兵態勢の強化を推進しています。全国の港湾へ米軍艦の寄港が繰り返されているのはそのあらわれです。アジアの軍事的緊張を高める軍事偏重の政策をやめ、日本国憲法の平和原則にたった平和外交への転換を要求します。

新しい署名運動は、日本政府に「核の傘」からの離脱を迫り、非核三原則・非核「神戸方式」を守る力を強めることとなります。かつて、兵庫県民半数を上まわる

330万の核兵器廃絶署名を集めた力を発揮し、兵庫県民の核兵器廃絶、憲法9条と非核「神戸方式」守れの意思を世界に伝えましょう。

全国の米軍再編・基地強化を許さないたたかい、被爆者行政の抜本的改善を求めるたたかい、格差是正など生活破壊に抗するたたかいを、国民的な運動に発展させましょう。国民の声が政治を動かす時代にふさわしく、憲法9条と非核三原則が輝く日本へ、憲法どおりの国政・地方・政治の実現へ、非核平和の国民世論を大きく発展させましょう。

2011年3月18日

非核「神戸方式」決議36周年記念のついで

近畿集団訴訟第3陣

放射線被害は明らか

3月18日に大阪地裁で開かれた原爆症集団認定第3次訴訟・口頭弁論で、郷地秀夫理事（原爆症認定集団訴訟・兵庫ネットワーク代表）の証人尋問が行われた。

この訴訟は、原爆症認定を求める被爆者306人が03年4月から17地裁に提訴した後、09年に麻生太郎首相（当時）と原告側が交わした「8・6確認書」以前に、近畿で追加提訴し国とあらそっているもの。並行して、「8・6確認書」以後も7000人以上の大量の申請却下を受けて、認定促進・義務付訴訟もあらそわれている。

郷地先生は、右網膜動脈閉塞症での申請を却下された原告被爆者について、これは動脈硬化が眼に現れているものであり、三歳の時に1.7キロでの被爆により血管が傷つけられたと考えられると証言。広島で原爆投下直後に弟を捜して入市し遺体を連れ帰った原告についても、放射性汚染物の体内被曝と説明した。

この日の証人尋問では、東神戸病院の滝本和夫先生の証人尋問もあり、8歳の乳児期に1.2キロの至近距離



公判後、新年集会で報告する郷地運営委員

で被爆した原告について、相当な免疫力低下が考えられB型肝炎ウィルスに感染し発症したものと証言した。

次回弁論は7月8日での日が最終弁論となる。

5・3神戸憲法集会

5月3日（火・祝） 13：00開場 13：30開演

神戸市勤労会館7階 大ホール

●講演 「憲法のところで時代を読む」

●文化行事 ファゴット&ピアノ演奏

講師 森英樹さん（名古屋大学名誉教授）

ご参加いただける先生は、☎078-393-1807 兵庫県保険医協会事務局（担当：平田）まで

第10回 反核医師近畿懇談会 ご案内

次回の反核近畿懇談会を下記の通り開催いたします。各府県の活動報告・交流とともに、小田徹也先生に広島での被爆・救援活動から IPPNW 大阪支部結成にいたる経験を中心に、核兵器廃絶の思いをお話しいたします。
ご多忙ななかですが、ぜひともご参加ください。

■日時 5月8日(日)

10:30～12:30

■会場 大阪保険医会館

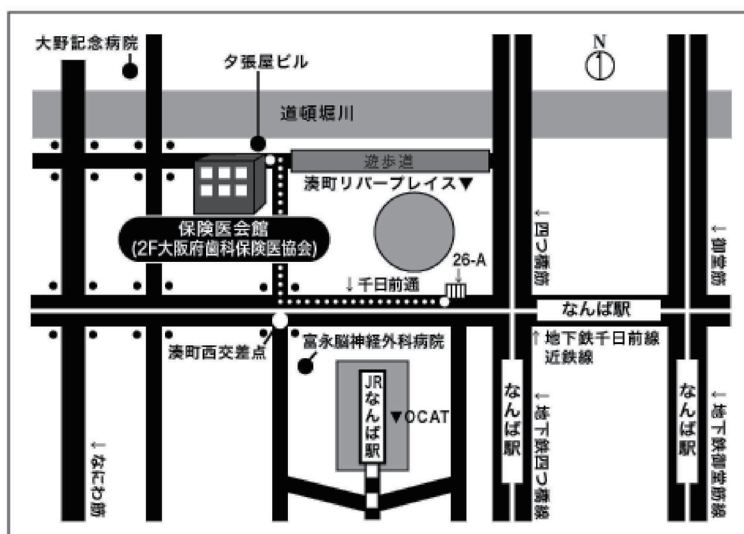
(地図参照、電話 06-6568-7721)

10:30～ 話題提供

「ヒロシマの体験、
反核の思い」

IPPNW 大阪支部長

小田 徹也 先生



11:30～ 各会の報告、今後の予定

(12:30 終了予定)

参加申込書 FAX078-393-1802(兵庫県保険医協会・担当岡林)までご返信ください

第10回反核医師近畿懇談会

☐参加します

☐都合がつけば参加します

所属団体 _____

氏名 _____

お問い合わせは、☎ 078 - 393 - 1807 兵庫県保険医協会事務局 (担当：岡林・平田) まで